

① 2016年度の営業状況は、記事によると売上高は前年度並み、入館者数は1割弱減っています。何を意味しているのか、本文中から抜き出しましょう。

1人当たりの客単価と買い上げ率が上がった

② 映画館や複合衣料、生活雑貨店が売り上げをけん引した理由を説明してください。

幅広い年齢層が利用した

③ 皆さんはどんな時に駅ビルを利用しますか？ 隣の席の人と話し合ってみましょう。

映画？ 服？ スイーツ？ 文具？ それともお土産？



売り上げ、入館者数ともに目標をクリアしたアミュプラザおおいた＝13日、大分市

JR大分シティは「入館 飲食店の売り上げが減少。者数は減少したが、1人当 熊本・大分地震の影響で1人当たりの客単価と買い上げ率 時、需要が落ち込んだ土産物が上がったことで、好調な物も15年度には届かなかった。売り上げを維持した」と分析した。一般的な客層の20～30代に加え、40～50代の利用者も多く来場。幅広い客層が利用する映画館や複合衣料、生活雑貨店などが売り上げをけん引した。

話題性のあるショップを積極的に誘致し、新たな魅力をアピールしたことも好調につながった。その他▽クレジットカードの会員数拡大▽年間通してのイベント開催▽商店街など連携したイベントなどを好調の要因に挙げている。一方、入館者数に運動し、

17年度は、会員数が増えているクレジットカードの活用やテナントスタッフの人員強化に取り組む。加えて、これまでは街なかを中心に実施していた連携施策を拡充。地域・スポーツイベント、行政関係施設など幅広く協力し、県内への誘客・集客を図る。JR大分シティは「本年度も駅ビルの楽しさ、新しさを提案してファンを増やし、大分県を盛り上げていきたい」としている。

(衣笠由布妃)

JR大分駅ビル(大分市)の商業施設アミュプラザおおいたの管理運営会社JR大分シティは13日、2016年度の営業状況を発表した。売上高は前年度並みの22億3千万円。入館者数は15年度比91・6%の22万2千人となった。売り上げ、入館者数ともに目標(21億0千万円・2千万人)を達成。同社は「開業効果の反動や地震の影響を受けた中、15年度並みの売り上げを確保したことは評価している」と開業2年目を総括した。

アミュプラザの昨年度売上高
初年度並み22億3千万円

映画館や衣料がけん引

(2017年4月14日付朝刊県政面)